

日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第25期・第6回）議事録

日時：令和3年9月10日（金）16:00-17:00

場所：オンライン利用会議（Teams）

出席者（敬称略）：岡本裕巳、玉田 薫、谷口 功、加藤昌子、尾嶋正治、斎藤公児、佐藤 縁、竹内孝江、藤本俊幸、宮崎あかね

欠席者： 栄長泰明

記録：佐藤 縁

配布資料：

資料番号なし 第25期化学委員会第6回分析化学分科会次第

資料6-0 前回議事録（第5回分析化学分科会議事録）

資料6-1 日本学術会議学術フォーラムポスター（第4次案）

資料6-2 日本学術会議学術フォーラム（ポスター記載事項メモ）

参考資料6-1 メールコピー

参考資料6-2 学術フォーラム申請書のコピー

参考資料6-3 昨年度日本学術会議学術フォーラムポスター

参考資料6-4 昨年度の流れ

議事内容

(1) 前回議事録の内容について再度確認

資料6-0に基づき、前回議事録を確認した。内容については既に全員に確認済み。前回の議論の流れを確認した。

(2) 学術会議第三部会の状況について

岡本会員より第三部会（第25期第3回）での論等について説明があった。

(3) 学術フォーラム（11月11日）の準備について

谷口委員長より、この間の準備状況の報告、最終的なプログラムの変更・編成について状況の報告があった。今般、分科会で検討してきた内容を学術フォーラムとして認めていただき、ポスター作成もできる旨報告があった。申し込み URL や QR コードの利用について補足説明（10月中旬ごろにオープンになる旨）があった。講演者への対応（旅費等）についても、学術会議事務局が対応担当するので、連絡先を学術会議事務局に知らせることとする。日本化学会等、共催の許可はいただいていると報告があった。

(4) フォーラムの成果広報について

谷口委員長より、学術フォーラムの開催については、形として残した方がよい、学術会議の中だけでなく、広く社会の皆さんにお知らせする必要があるので、学会誌などに寄稿なども考えたい旨説明があった。委員からは、「学術の動向」に寄稿できるとよい、などの意見もあり、分科会としては成果として取りまとめるのはもちろん、それを例えば日本化学会の化学と工業などへの寄稿等、交渉含め、谷口委員長の方である程度主導することとなった。

(5) 今後の予定等

大型プロジェクトの議論等は12月に進めたい。年末に開催される化学委員会、その後の分科会で議論をすることとし、それまでの間は主にメールで情報交換する予定。

報告事項：IUPAC 分析化学ディビジョンでは、2021年1月31日締め切りで、"The Emerging Innovator Award in Analytical Chemistry"および"The IUPAC Analytical Chemistry Medal"を募集。選考の結果、日本から応募した東京大学生産技術研究所 南 豪准教授が"The Emerging Innovator Award in Analytical Chemistry"に選定された。8月12日、IUPAC General Assemblyにおいて受賞記念講演があった。(https://iupac.org/the-2021-emerging-innovator-award/)

以上